

「香港中文大学サマープログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 成田 皓二郎

まず今回のプログラムを通して、中国語の語学力、特に読解力とリスニング力を大幅に向上させることができたと思う。私は、自らが適正と感じるレベルよりかなり高いレベルのクラスで授業を受けることになり、正直辛さもあった。しかし、何とか授業についていこうと毎日精力的に中国語の学習に取り組んだことで、少しずつではあるが力がついてきているということを実感できた。中国語学習に関して、クラスの先生の次のようなたとえ話が印象に残っている。中国語学習はワインボトルのようなもので、ボトルの底のほう、つまり初級・中級レベルは容易に通り返れることができる。しかしボトルの口のほう、つまり上級レベルに向かうにつれ通り返れるのが困難になってくる。ボトルの栓を開けるには、今の時期最も努力が必要である。全くその通りであると思う。中級レベルを一通り学習し終えた今の時期に集中的に中国語を学習するというのは非常に効果的なことであった。

ただし、スピーキング能力に関してはまだより一層の努力が必要であると感じた。ただ文法や単語を覚えていくだけでは、外国語は話せるようにはならない。積極的にコミュニケーションを行おうとする姿勢が必要だということを痛感した。私と同じクラスのイタリア人学生は、文法や発音を気にする以前とにかく質問に対しすぐに答えようとする姿勢が一貫していた。日本で彼ほど積極的な学生は見たことがない。大きな衝撃を受けた。

また、香港で生活しているうちに英語の重要性というものも改めて感じた。現地の人々や多国籍の学生と話すときには基本的に英語で話さなければならない。また、プログラムに関する説明や連絡もすべて英語である。私自身、留学前は英語に対する関心は薄く、正直あまり必要性を感じていなかった。しかし、今回のプログラムの様々な場面で「もう少し英語ができれば…」と感じた。例えば、香港中文大学の学生とプレゼンの内容について話し合うときでも、もっと英語力があれば自分の意見をさらに主張することができ、彼らとの議論がより内容の濃い物となったはずである。英語ができれば、世界中さまざまな地域の人々と繋がることができ、今よりもずっと多くの知見を得られるということを実感した。

今回のプログラムで、自分が今までいかに「井の中の蛙」であったかを知った。レベルの高い仲間と出会い、共に過ごすことは刺激的な経験であった。中国語にしても英語にしても、国際的に通用するような高い水準を目指し邁進していきたい。